

旭川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る数値目標等の状況について

○人口全体の状況について

◇総人口と人口比率

	平成29年(2017) 10月		平成30年(2018) 10月		令和元年(2019) 10月		令和2年(2020) 10月	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
年少人口 (0~14歳)	37,885	11.1	37,157	11.0	36,248	10.8	35,416	10.7
前年増減	-	-	▲ 728	▲ 0.1	▲ 909	▲ 0.2	▲ 832	▲ 0.1
生産年齢人口 (15~64歳)	193,185	56.7	189,728	56.1	186,431	55.7	183,786	55.4
前年増減	-	-	▲ 3,457	▲ 0.6	▲ 3,297	▲ 0.4	▲ 2,645	▲ 0.3
老年人口 (65歳以上)	109,452	32.1	111,112	32.9	112,016	33.5	112,748	34.0
前年増減	-	-	1,660	0.8	904	0.6	732	0.5
合計	340,523	100	337,998	100	334,696	100	331,951	100
前年増減	-	-	▲ 2,525	-	▲ 3,302	-	▲ 2,745	-

※各年の合計には年齢不詳1人を含む。

◇自然増減

(各年1~12月)

	平成30年	令和元年	令和2年	R2-R1差
出生数	2,123	1,967	1,917	▲ 50
死亡数	4,377	4,496	4,669	173
増減計	▲ 2,254	▲ 2,529	▲ 2,752	▲ 223

◇社会増減

(各年1~12月)

	平成30年	令和元年	令和2年	R2-R1差
転入者数	10,862	10,800	10,490	▲ 310
転出者数	11,427	11,593	10,411	▲ 1,182
増減計	▲ 565	▲ 793	79	872
札幌市	▲ 1,277	▲ 1,233	▲ 920	313
道内札幌以外	897	855	1,020	165
道外	▲ 185	▲ 415	▲ 21	394

※転出超過の主な内訳

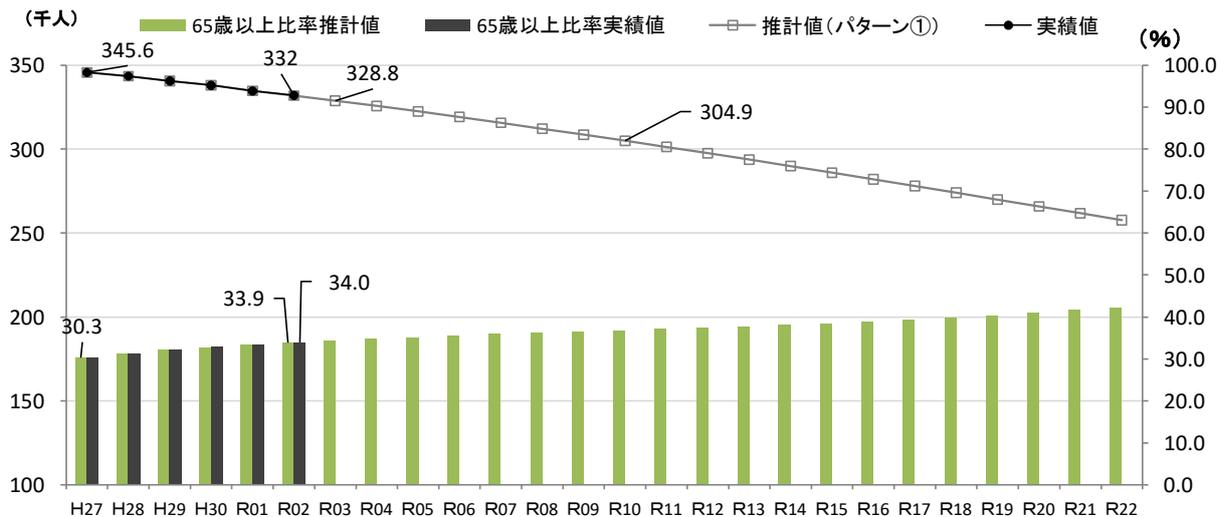
※道外には職権登録・削除分を含む

担当者コメント①

- 出生数減少と死亡数増加の傾向は続いており、自然減が拡大し続けている。
- 転入者数の減少傾向は続いているが、転出者数が大きく減少したことから平成9年以来の社会増となった。
- 内訳として、札幌市や道外(首都圏)への転出が減少し、転入が増えている状況。後ほどデータが出るが、若年層の動きに変化があった。

◇人口ビジョンの推計人口との比較

本市の将来推計人口と現状の比較



資料:旭川市(第8次総合計画,人口ビジョン)

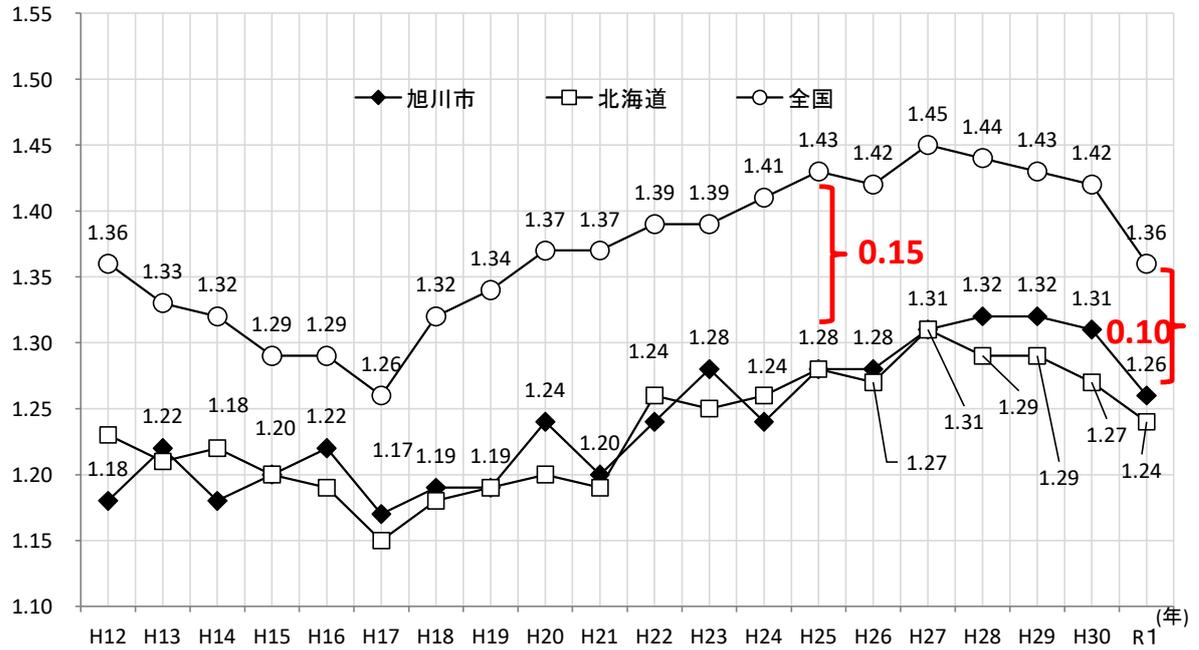
担当者コメント②

- 実績値が推計値を142人下回り、65歳以上比率は0.1%上回った。
- 人口推計(策定時の状況が続くと想定したパターン①)を超える少子高齢化が進行している。

○基本目標1

指標	数値目標
合計特殊出生率 (H25年現在:全国1.43, 道1.28, 市1.28)	全国平均との乖離を縮小し, 全国水準まで引き上げる

(人)

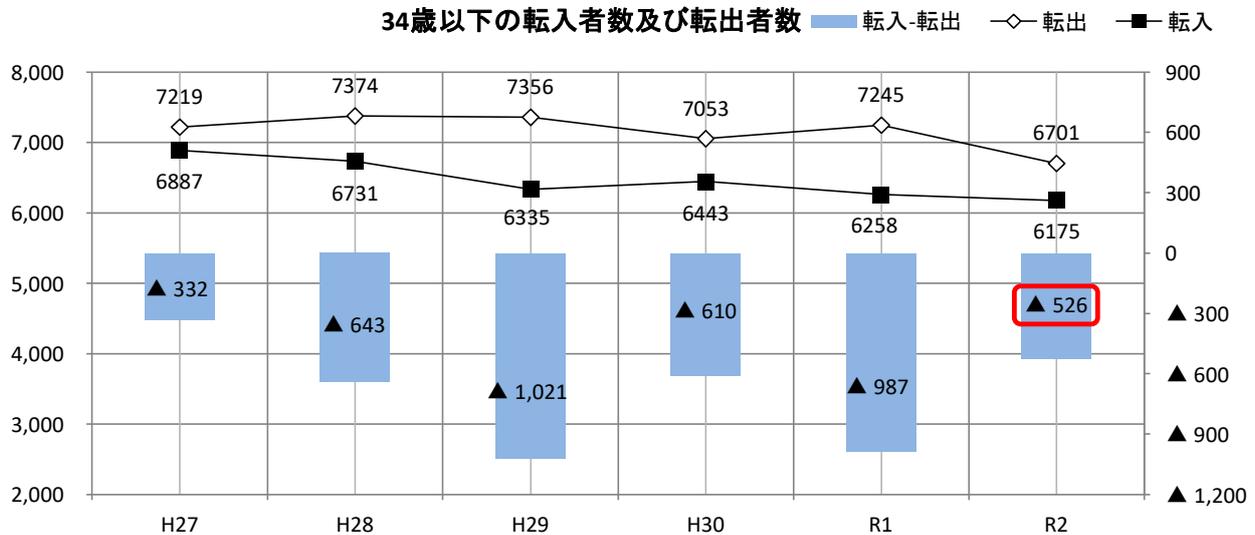


担当者コメント③

- 合計特殊出生率は1.26で前年度より0.05ポイント下がったが, 全国的に下がっている傾向。コロナの影響によって妊娠控えや婚姻数の減少が要因として考えられる。
- 全国平均との乖離幅は0.10ポイントであり, H25と比較すると0.07ポイント改善している。

○基本目標2-1

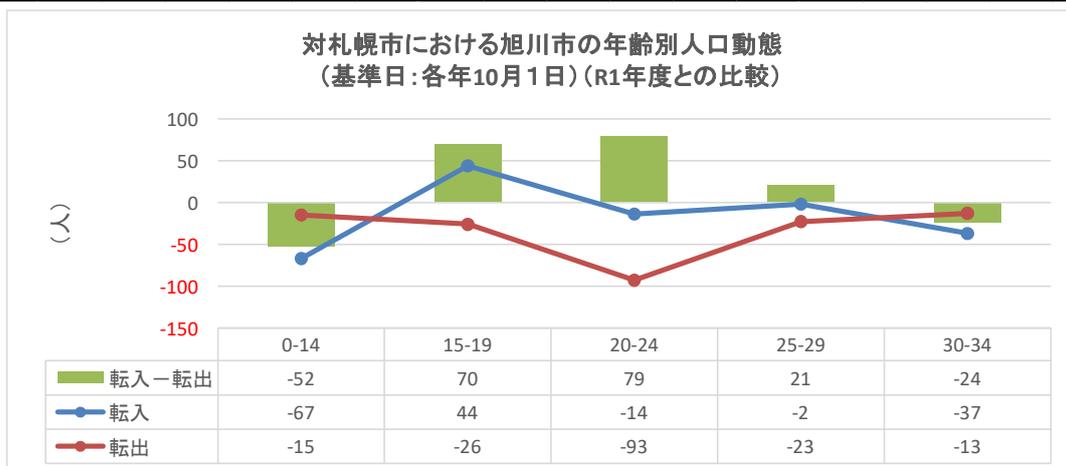
指標	数値目標
34歳以下の社会減(転入者数-転出者数)の減少 (H30年10月~R1年9月実績:▲987人)	▲332人(H27年実績)より社会減を減少(R6年度)



<参考> 旭川市の年齢別人口動態 (基準日:各年10月1日)

年齢階級(歳)	転入						転出						転入-転出					
	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計
R 1	1,215	686	1,781	1,402	1,174	6,258	1,252	975	2,180	1,631	1,207	7,245	-37	-289	-399	-229	-33	-987
R 2	1,096	809	1,754	1,435	1,081	6,175	1,156	1,000	1,887	1,598	1,060	6,701	-60	-191	-133	-163	21	-526
R 2-R 1	-119	▲123	-27	33	-93	-83	-96	25	▲293	-33	-147	-544	-23	98	266	66	54	461

年齢階級(歳)	転入(うち対札幌)						転出(うち対札幌)						転入-転出(うち対札幌)					
	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	合計
R 1	251	119	437	368	291	1,466	398	311	659	520	331	2,219	-147	-192	-222	-152	-40	-753
R 2	184	163	423	366	254	1,390	383	285	566	497	318	2,049	-199	-122	-143	-131	-64	-659
R 2-R 1	-67	▲44	-14	-2	-37	-76	-15	-26	▲93	-23	-13	-170	-52	70	79	21	-24	94

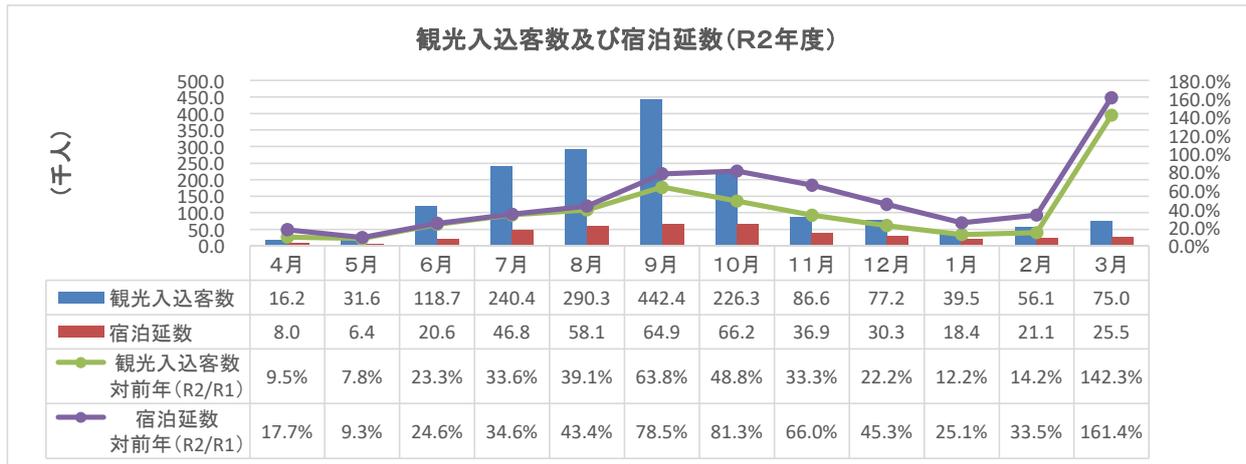
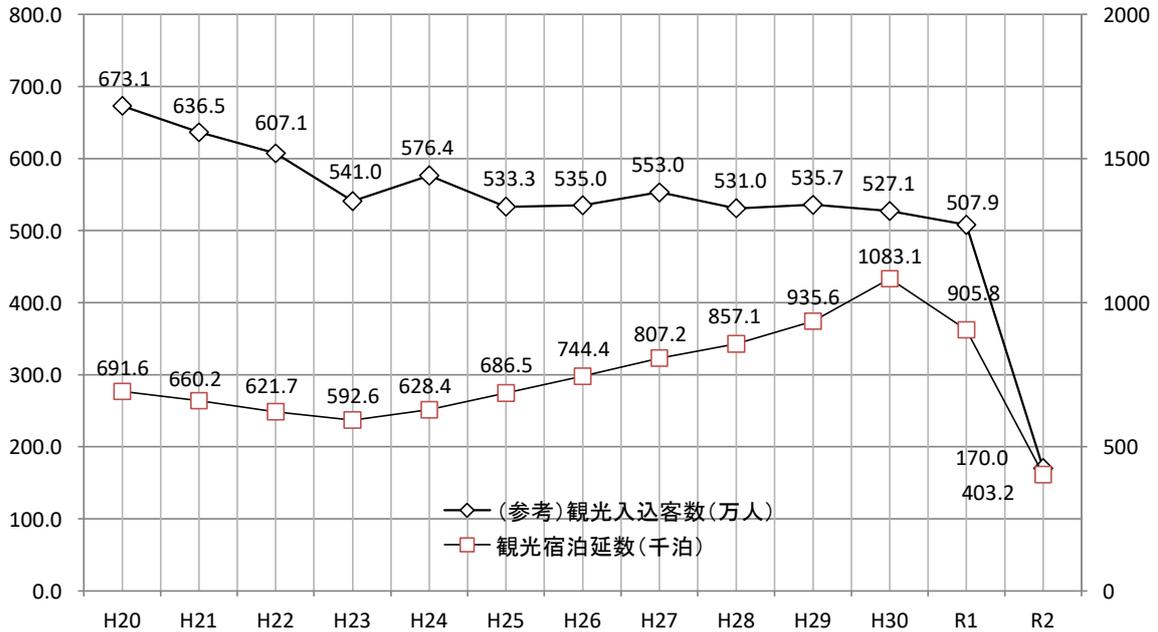


担当者コメント④

- 転出超過数は**526人**であり、昨年と比べて461人改善しているものの、依然として若年層の人口流出は続いている。
- 転入数は、15-19歳が123人増加しており、札幌からの転入が44人増加している。
- 転出数は、**544人減少**しており、20-24歳代の293人の減少が大きい。特に札幌市への転出数は93人減少している。
- コロナ禍において、札幌への進学・就職が減り、逆に札幌から旭川への進学就職が増加したことが考えられる。

○基本目標2-2

指標	数値目標
観光宿泊客延数(H30年度:1,083千人泊)	1,300千人泊(R6年度)



担当者コメント⑤

●全体として、コロナの影響によって過去最大の減少幅。
 ●3月は伸びているが、北海道の緊急事態と今年のコロナが落ち着いていたことが要因
 (※4月から5月に発令された緊急事態宣言による外出や往来の自粛要請の影響により、5月は観光入込客数及び宿泊延数ともに前年度比9割以上の減少。その後、国のGoToトラベルや北海道のどうみん割といった宿泊支援事業や、飲食おもてなし事業など市独自の事業により、宿泊延数は9月、10月ともに前年度比約8割と、回復の兆しが見え始めていたが、11月以降、大規模クラスターの発生など市内で感染症が拡大したほか、GoToトラベルや市の宿泊応援事業の停止などにより、1月の宿泊延べ数は前年度比7割以上の減少となり、最終的に前年度比5割以上の減少となった。)

○基本目標3

指標	数値目標
産業全体の付加価値額【RESAS】(H28年度:380,107百万円)	471,332百万円(R6年度)

担当者コメント⑥

●RESASは経済センサスを基に分析されており、令和3年度に調査が実施されるため、実績値の更新は令和4年度以降となる。